

2021 年 6 月 30 日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部

教員研修 成果報告書（Web 公開用）

1. 所属	文学部 言文センター
2. 職名・氏名	准教授・ シュニッケル ジェイコブ
3. 研修期間	2020 年 4 月 1 日 ～ 2021 年 3 月 31 日
4. 研修先機関（国名）	San Diego State University (United States) Bay Path University (United States)
5. 研修課題名	Practical learning experiences to prepare students for a globalized workforce: Lessons learned from an international virtual exchange program
6. 研修経過 （月単位で記載してください） 例）4月上旬～5月下旬：	4月～6月：コロナ流行により必要となった研究計画の調整 7月～11月：AAC&U（10月開催）およびJALT（11月開催）での学会発表の準備を、ベイパス大学の Maura Devlin 教授と共に行う。その中で、バーチャル国際交換プログラムの Best Practices を特定する。 12月～2月：CamTESOL での学会発表の準備を行う。交換プログラムに参加した実践、およびベイパス大学の生徒に向け、アンケートを作成、結果を分析する。 1月～3月：ベイパス大学の Maura Devlin 教授、Heather Bushey と共に、生徒からのアンケート結果を更に分析し、データの作成をする。
7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）	3つの学会での発表 AAC&U Conference（10月8日） Title: Designing, Implementing, and Disaggregating a Hybrid Exchange Program JALT Conference（11月22日） Title: Leverage Your LMS for Virtual Study Abroad CamTESOL Conference（2月5日） Title: Lasting Impacts and Impressions of an International Virtual Exchange Program

8. 所感	私の長期研修計画はコロナによるパンデミックの影響を受け、いくつかの変更を要しました。しかし、私の研究のひとつに、「バーチャルでの国際交流」というテーマがあったため、今回はこのテーマに焦点を当て、取り組むことができました。さらに、パンデミックの影響で、私が出席した学会は全てバーチャルに変更された為、移動が困難になった1年でしたが、3つの学会で研究発表することができました。バーチャル交換プログラムは、将来とても有効的に活用できると、プログラムに参加した両大学の生徒の回答からも確信できました。まだ学ぶことの多い今回のテーマについて、これからも研究を続けていく予定です。
-------	---